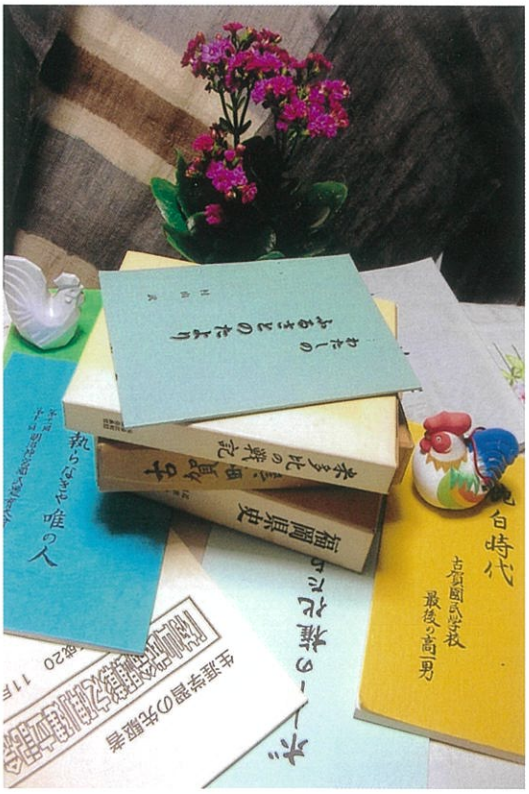
郷土の先覚者　村山武の顕彰碑　－古賀市上米多比－
第一人者たれ！　信念で野辺に根づく

平成20年11月、上米多比公民館前の市道脇に、「村山武翁顕彰之碑」が建てられました。この地の小字は「八竜」と呼ばれ、村山所有の田です。その昔、雨乞いをした場所であり、農業振興に燃えた武が、試験田として土地改良や、プリンスメロン・みかん苗の栽培を試みた所です。この顕彰碑は、230余の教え子や薫陶を受けた個人・団体の浄財で建てられました。

村山武は大正10（1921）年、小野村米多比で、父甚次郎、母ノブの三男（長男、次男は夭折）として生まれました。甚次郎は農業改革の運動をして、全国を行脚した篤農家でした。昭和5（1930）年、米多比農事組合は、県知事から金一封と表彰を受けています。

顕彰碑が建つ八竜の田、玄界灘や相島が見える



米多比の戦記、古賀町誌・福岡県史（民俗）の編集や執筆にあたった。
年賀や暑中御見舞いには、「ふるさとのたより」として地名や民俗を知人に送った。

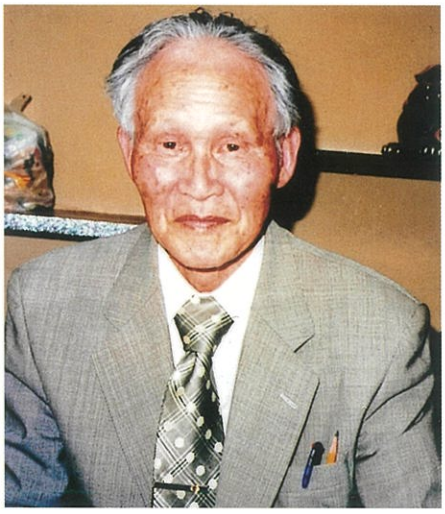
武は昭和３（1928）年小野尋常小学校入学、青柳高等小学校を経て昭和12（1937）年福岡師範学校に入学、漕艇（ボート）部では、昭和15、16年明治神宮国民体育大会に出場、福岡県代表として２位、３位の入賞を果たしています。強靭な体躯と根気力はこのときに育まれました。昭和17年卒業、古賀国民学校４年の訓導として赴任、７ヵ月後の18年召集、福岡連隊から満州関東軍へ配属、20年内地戦務、終戦で除隊、古賀国民学校へ復職。「何事にもベストを尽くせ」を座右の銘として、自分にも子どもたちにも接しました。

青年時代の村山　武

昭和23年村山家の総領として、また母ノブのたっての願いで教職を辞め、「野辺の生涯」の道を選びます。それからの武の軌跡は、昭和20～30年代の農協青年部時代、40年代の公民館主事時代、40年代後半～50年代の古賀町議員時代、50年代の文化協会時代、平成時代は生涯学習充実期の５期に分け、農業・福祉・社会教育等多彩な活動を展開し、古賀から県へと拡がっていきました。昭和39年には子ども会活動の実績が評価され、県で第１号の児童館建設を米多比に誘致しました。「地域に社会教育を根ざす」を基本理念として人づくりに尽力した武自身も、郷土古賀の調査研究活動をライフワークとして取り組み、妻和子とともに生涯学習を実践しました。

昭和60年には文部省社会教育功労者表彰、平成18年には叙勲旭日単光章を授与され、「第一人者たれ！　信念で野辺に根づく」を貫き通した生涯でした。平成18年11月24日没　享年85歳。

武の尽力で米多比にできた
福岡県最初の児童館



晩年の村山　武

平成21年3月31日発行　　古賀市教育委員会